

2 現状のまとめと課題

(1) 現状のまとめ

- ア 本県における保健室等登校児童生徒の実態を把握した。中学校において、不登校の生徒が急激に増加する傾向と同じように、保健室等登校の生徒数が増加していることが分かった。教室に入ることに抵抗感のある児童生徒にとって、保健室や教育相談室、心の教室、図書室など学校内で安心して過ごすことのできる場所の必要性が再認識された。
- イ 保健室等登校を始めるきっかけは、本人の希望によることが多い。また、登校の仕方や保健室などでの過ごし方についても、本人の意志に委ねることが多い。これらのことから、当該児童生徒のニーズ^(注1)を把握して対応することが重要である。
- ウ 当該児童生徒への対応等の実際については、直接かかわる教職員個人に委ねられやすい。その具体的内容としては教育相談と教科指導が多いが、全校で対応する体制がまだ十分に整っているとは言えない。
- エ 過去の事例等から、保護者と十分連携しながら対応することや全教職員で共通理解して対応することなど、教職員の適切なかかわりが重要であることが示された。

(2) 課題

【課題1】保健室等登校児童生徒の状態やニーズ、発達特性に応じたきめ細やかな対応

保健室等登校児童生徒の状態やニーズ、発達特性に応じたきめ細やかな対応の在り方等を検討する必要がある。特に、保健室等登校が長期化した場合などは、学力低下という新たな課題が生じることが予想されるため、当該児童生徒の学力面への対応方法についても検討する必要がある。

【課題2】校内支援体制の確立

当該児童生徒に誰が、いつ、どこで、どのようにかかわるのかについては、校内の委員会等で共通理解を図るとともに、心の教室相談員やスクールカウンセラーとの積極的な連携を含めた校内支援体制を確立する必要がある。また、保健室等登校児童生徒への対応に教育相談係のかかわりが明確にみえないことから、その機能化を図る必要がある。

【課題3】学校と家庭、相談機関等との連携及び学校間の連携

学校が家庭や他校種、相談機関との信頼関係を保つことの大切さが言われながら、十分ではない面が見られる。当該児童生徒の状態に応じて、どのように連携していくことが効果的であるかを検討する必要がある。

(注1) ニーズ：ここでは、学校への登・下校方法、学校での生活場所や過ごし方、学習や行事などの教育活動への参加など、当該児童生徒がもっている学校生活に対する願いや目標などの意識を指す。